

【就職説明会】

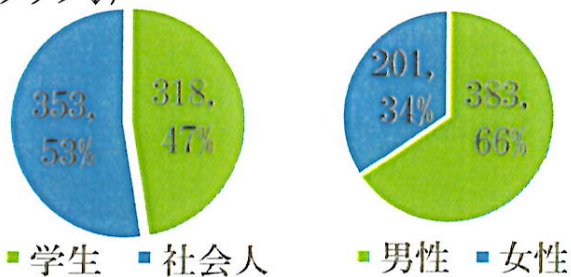
はじめに

2/8に東京にて開催されました、「アグリク2021」に○農場の従業員募集を斡旋すべく、自分も○農場のコンサルタントとして、農場紹介をしてきました。○農場では、外国人研修生を雇っておりますが、日本人従業員の確保が難しいのが現実であり、今よりも従業員が増えて、作業よりも牛にかける時間が増えることで、病気の予防等にもつながると考え、そのサポートをすべく、奥先生と共に参加してきました。

アグリク 2020

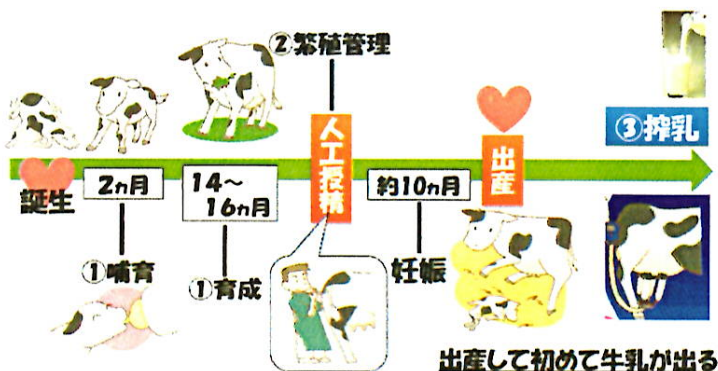
来場者数は671人で、農業法人・農業関連企業60社が出店しており、酪農では13社、その中でも北海道は9社が出展しておりました。

来場者は高校生から、大学生、社会人で転職希望の方まで様々いらっしゃいました。全国から来ており、熊本や秋田の子もいました。農業系の高校や大学で就職活動として団体で来ている学生もいましたが、今回のアグリクではどちらかというところ農業>酪農であったため、声をかけても「酪農は興味ありません。」”北海道はちょっと、”と言われることは何回もありました。(来場者内訳グラフ↓)



準備

今回はかなり短い時間の中で①ポスター②パンフレット③発表用スライド等の準備をしていきました。他のブースのポスターやパンフレットの質の高さにびびっていましたが、酪農に興味をもってくださる子はかなり真剣に話を聞いてくれた印象でした。しかし、「酪農とは」「酪農の面白さ」を何も知らない人に伝えることの難しさを痛感しました。(牛の一生を紹介したスライド↓)



アグリク

- 農業界の常識が変わる一日 -

ブースでの実際

自分からブースに来て話を聞かせてくださいとやって来る子はほほいませんでした。パンフレットを手にとってくれた子や近くを歩いている子にどんどん話しかけて行って、話を聞いてもらう形をとっていました。

すでに何社かインターンに行っている子も何人かいたので、こういうイベントに何回も出て知名度を上げ、まずはインターンに来てくれるようになればいいなと思いました。

農場の現状や特色

今回の出展で、農場の良さを酪農未経験者に伝えるために、農場の現状や特色、今まで求人情報や就職までの流れで曖昧であった部分を見つめなおすことが出来ただけでも、かなりの収穫だったのではないかと思います。

さいごに

昨年のアグリクでは同じく約700人来場者がいて、実際に採用したのは全社で約40人しかいませんでした。そう考えると、1回のイベントで良い人材と出会えるのはかなり難しいかもしれません。今回、ブースで話を聞いてくださったのが19人いらっしゃったので、その中で1人でもインターンに来てくれたらいいなと思いました。

どの農場も人材確保は悩むことの1つではないでしょうか。農場における病気や繁殖の問題だけでなく、そのような問題も一緒に解決できる獣医師を今後目指したいと思いました。

小方可奈江



Total Herd Management Service